

intertek

news

Vol.93

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

- 01 **マネジメントシステムで再構築する強靱な組織の礎**
- 02 **特集**
- 03 **ISO 9001規格改訂要求事項(最終国際規格案)の全体像**
- 04 **News&Topics**
 - ▶ FSSC 22000 Version7 発表
 - ▶ 新コース・セミナー案内:IATF 16949:2016品質強化/ISO 14001:2026移行対策
 - ▶ レインフォレスト・アライアンス認証サービス開始
 - ▶ Q&A
- 05 **審査の現場から**
 - ▶ お客様紹介
(株式会社テロワール・アンド・トラディション・ジャパン)
 - ▶ 連載よみもの「審査員の心理」(環境編)
「マネジメントレビュー(1)」
- 06 **連載よみもの**
 - ▶ 審査員リレーエッセイ
「新しい発見も……」
(審査員 占部 真純)
 - ▶ 環境よみもの「ゆらぐ時代と、つなぐ力」
「仕組みを『回す力』—内部監査とマネジメントレビューが
つなぐ実効性」
- 07 **お客様からのお便り**
 - ▶ 「心豊かな庭造りとティーツリーオイル」
(株式会社津村造園)
 - ▶ 「長年の技術で信頼に応え、抹茶粉碎へ」
(株式会社ペリカン)
- 08 **研修コースのご案内**
 - ▶ ちょっといっぴく
 - ▶ 研修コース案内
 - ▶ 受講生からのお便り
(株式会社徳倉)

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

<https://ba.intertek-jpn.com/>



マネジメントシステムで再構築する強靱な組織の礎

営業部 西日本エリア 中部地区リーダー ふくだ なおたか 福田 直隆

近年、私たちのビジネスを取り巻く環境は、かつてないほどの不確実性に晒されています。激甚化する自然災害、巧妙さを増すサイバー攻撃、そして地政学リスクに伴うサプライチェーンの寸断。これら「想定外」の事態は、もはや「稀に起こる災厄」ではなく、経営における「常態的なリスク」へと変質しました。



こうした予測困難な時代において、改めてその真価が問われているのが、マネジメントシステムの根幹である ISO 9001 等の「リスク及び機会への取り組み」です。

多くの組織において、この項目は「毎年の審査のための事務作業」に陥ってはいないでしょうか。しかし、規格の本質は「不適合の発生を未然に防ぎ(予防)、顧客満足を維持すること」にあります。つまり、想定外の事態が起きてもなお、提供する価値を止めない「事業継続の思想」がその根底に流れているのです。

今、私たちが取り組むべきは、形式的なリスクアセスメントの脱却です。

- **供給網の死角を洗い出す**：代替調達先や物流ルート of 冗長性を、QMS のプロセスとして組み込む。
- **デジタル・レジリエンスの強化**：情報資産の保護を品質保証の前提条件と捉え直す。
- **変化を「機会」へ**：危機を乗り越える過程で見た無駄を省き、新たな標準(スタンダード)を構築する。

すべてを見通すことができない不確実性が常態化する中で、個別対応ではなく、あらゆる状況に耐えうる仕組み、すなわちマネジメントシステムとして備えることが、組織の強さを左右するのです。

7月、本格的な台風シーズンの到来や、下期に向けた事業計画の再点検を行うこの時期。こうした視点に立ち、貴社のマネジメントシステムを、単なる「適合性の証明」から、あらゆる荒波に抗い、持続的な成長を勝ち取るための「強力な経営武器」へと進化させてみませんか。

私たちは認証機関として、皆様の組織が「想定外」を乗り越え、さらなる信頼を築き上げるプロセスを共に歩んでまいります。

ISO 9001 規格改訂

要求事項(最終国際規格案)の 全体像

インターテック・サーティフィケーション
認証部

今秋改訂発行予定のISO 9001品質マネジメントシステム規格要求事項をポイントで紹介いたします。最終国際規格案(FDIS=Final Draft International Standard)の情報ですが、認証移行準備に向けて参考にしていただければ幸いです。

1 ISO 9001品質マネジメントシステム 要求事項の改訂概要

今回の改訂で注目すべき点として、まず要求事項の中に「品質文化」「倫理的行動」という新しい用語が追加され、トップマネジメントが促進することの実証が求められることになりました。2015年版では「基本概念及び品質マネジメントの原則」内で使用されていた用語ですが、現「社会の要求、責任」が要求事項内に反映されました。

続いて、箇条9.3「マネジメントレビュー」では、箇条9.3.3は2015年版の「アウトプット」から改訂規格案では「結果」と表記され、全体として「マネジメントレビュー」については、マネジメントシステムの意図した成果＝運用目的実現に対し、「トップマネジメント関与の重要性」を要求しております。そして、社会時代の変化に合わせて、顧客満足監視、顧客とのコミュニケーションの情報源としてソーシャルメディア等まで拡大されております。

他に、「文書化した情報を維持」が「文書化した情報として利用可能」、また、「文書化した情報を証拠として保持」が「文書化した情報は証拠として利用可能」と改訂されました。「証拠として」という表現は、客観的証拠を

特集

今年4月に改訂版が発行されたISO 14001に続き、本特集では、今年秋に新版の発行が予定されているISO 9001(品質マネジメントシステム)の規格改訂について取り上げます。現行版との比較を交えながら、改訂に伴う要求事項の全体像とポイントを分かりやすくご紹介します。新版への対応準備にお役立ていただければ幸いです。(編集部)

求めています。「利用可能」という用語は組織がその情報入手、使用、又は提供できることを意味しております。ISO/IEC専門業務用指針附属書SL内、マネジメントシステム規格の調和構造(Harmonized Structure)にある、つまりは共通規格テキストの改訂により整合性をとり、品質マネジメントシステム規格も改訂しております。

ISO 9001 品質マネジメントシステム改訂 — 発行情報 —

改訂版内容ポイント
(FDIS=Final Draft International Standard)

- ✓ トップマネジメントによる「品質文化」と「倫理的行動」の促進
- ✓ リスク及び機会の強化 「リスクに基づく思考」と「機会に基づく思考」
- ✓ マネジメントレビューへの「インプット」、マネジメントレビューの「結果」(重要性)
- ✓ 顧客満足監視の情報源としてソーシャルメディア等の拡大
- ✓ 「文書化した情報として利用可能」「証拠として利用可能な状態にする」へ
- ✓ 附属書 SL 内、共通規格テキストの改訂影響による変更

2 品質文化と倫理的行動を促進することは組織の能力を発揮するための基盤

「『品質文化と倫理的行動を促進する』ことをトップマネジメントが実証する」要求事項の意図としては、倫理的行動は品質文化の一部であり、リーダーシップが品質マネジメントシステムを支援し、顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を満たす製品及びサービスを提供すること、顧客満足度を向上させること、組織の評判を守り向上させること、これらの組織の能力を発揮するというコミットメントの基盤であることが挙げられます。従業員、外部提供者、顧客、その他の利害関係者との意思決定、行動、そしてやり取りが倫理的な行動に基づ

いていなければ、品質のあらゆる側面が損なわれる可能性があります。

関連し、箇条7.1.4「プロセスの運用に関する環境」は「適切な環境提供」の要求ですが、顧客満足度を高める品質マネジメントシステムの能力への影響に応じて検討し、管理することが重要であり、事業環境の変化が多い状況において、要因は複数の組み合わせが含まれる可能性があり、「倫理的行動を含めた組織の品質文化」が意図した結果を達成するための基盤であることを意図しております。箇条7.3「認識」内においても、e)組織の品質文化と倫理的行動が要求されており、人々が認識するだけでなく、その認識を「業務に適用」することも要求としております。箇条8.4「外部から提供されるプロセス、製品及びサービスの管理」では、組織は外部から提供されるプロセス、製品及びサービスが要求事項に適合していることを確実にすることに対し責任を負います。つまり、サプライチェーン管理においても倫理的行動と品質文化が重要な要素であることを意図しております。

3

持続可能な組織づくりに向けて

もう一つの大切な改訂ポイントとして「リスク及び機会の強化」があげられます。事業環境、利害関係者のニーズ期待の変化が激しい現社会において、「リスクに基づく考え方=Risk-based thinking」と「機会に基づく考え方=Opportunity-based thinking」という品質概念をそれぞれ整理しながらマネジメントシステムを計画することを要求しております。リスクに基づく考え方により、マネジメントシ

ISO 9001:2015 と ISO 9001:2026 (予定 FDIS) 比較

※変更予定部分のみ

ISO 9001:2015	ISO 9001:2026 (予定:FDIS)
4 組織の状況	4 組織の状況
4.4 品質マネジメントシステム及びそのプロセス	4.4 品質マネジメントシステム
5 リーダーシップ	5 リーダーシップ
5.2 方針	5.2 品質方針
5.2.1 品質方針の確立	
5.2.2 品質方針の伝達	
5.3 組織の役割、責任及び権限	5.3 役割、責任及び権限
6 計画	6 計画
6.1 リスク及び機会への取組み	6.1 リスク及び機会への取組み
	6.1.1 リスク及び機会の決定
	6.1.2 リスクへの取組み
	6.1.3 機会への取組み
7 支援	7 支援
7.1.5.2 測定のトレーサビリティ	7.1.5.2 測定結果のトレーサビリティ
9 パフォーマンス評価	9 パフォーマンス評価
9.2 内部監査	9.2 内部監査
	9.2.1 一般
	9.2.2 内部監査プログラム
9.3 マネジメントレビュー	9.3 マネジメントレビュー
9.3.1 一般	9.3.1 一般
9.3.2 マネジメントレビューへのインプット	9.3.2 マネジメントレビューへのインプット
9.3.3 マネジメントレビューからのアウトプット	9.3.3 マネジメントレビューの結果
10 改善	10 改善
10.1 一般	10.1 継続的改善
10.2 不適合及び是正処置	10.2 不適合及び是正処置
10.3 継続的改善	

ステムの計画から乖離することを引き起こす可能性のある要因を明確にし、適切な対策を決定、実施することにより、製品・サービスの提供計画からの逸脱を引き起こすインシデントが発生した場合でも運用目的を継続的に達成することを確実にすることを目的としております。一方、機会に基づく考え方により、計画された目標から逸脱する要因に対処し機会が発生した際にその効果を最大化することにつながります。激しい事業環境において組織が持続可能性を高めるための重要な要素となります。

【お問い合わせ】

特集内容に関するご質問・ご不明点等ございましたら、東京事務所 ISO認証部までお問い合わせください。

ISO認証部 Email:cert-scheme.japan@intertek.com

INFORMATION —セミナー情報—

「ISO 9001:2026(予定) 認証移行に向けて」のセミナー2種をオンデマンド研修にて開催しております。

◆ 品質マネジメントシステム改訂準備セミナー

【概要】

ISO 9001規格改訂の概要理解と合わせて、現行の2015年版から予定である2026年版への認証移行、および移行後の有効な運用に向けての準備、スケジュール感をつかんでいただくことを目的としたセミナー。2015年版との箇条比較、全体像と改訂ポイントもご説明します。

◆ 品質マネジメントシステム改訂規格(案:FDIS)セミナー

【概要】

ISO 9001の改訂規格案「要求事項全体の理解」から、現行の2015年版から予定である2026年版への認証移行の準備につなげることを目的としたセミナー。改訂要求事項(案:FDIS)を中心にした内容です。

※各セミナー詳細・お申し込み等は、弊社ホームページをご参照ください。
https://ba.intertek-jpn.com/on_demand/?category=25

FSSC 22000 Version 7 発表



FSSC財団は、2026年5月1日にFSSC 22000 Version 7

(以下Ver. 7)を発表しました。Ver. 7では、食品安全マネジメントシステム(FSMS)をグローバルな食品サプライチェーンにより適合させるため、次のような特徴が盛り込まれています。

- ① 前提条件プログラムに対する新しいISO 22002-Xシリーズの組み入れ
- ② GFSIベンチマーク要求事項2024とスキームの整合
- ③ 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献する組織を支援するための要求事項の強化
- ④ フードチェーン(サブ)カテゴリの区分に対してより明確化された構造を提供
- ⑤ 継続的改善の一環としての編集上の変更や修正

なお、Ver.7への移行期間は、2027年5月～2028年4月となります。

<FSSC 22000改訂に関するお問い合わせ> 食品認証部までお願いいたします。

Email: jpn.ba.food@intertek.com

新コース・セミナー案内 IATF 16949:2016 品質強化/ ISO 14001:2026 移行対策

新開講の研修プログラムをご紹介します。

- IATF 16949:自動車産業規格IATF 16949 対応として、内部監査員養成コース(2日間)とコアツール4分野-3コース(①MSA・SPC/②APQP/③PPAP)のオンライン研修を開講しました。内部監査員コースでは、監査の原則から実践的な監査手法までを習得。コアツール研修では、MSA・SPCによる測定信頼性確保と工程管理、APQPによる品質の作り込み、PPAPによる量産妥当性の証明など、品質保証に直結する実務スキルを段階的に学習できます。自動車業界に限らず、QMS認証組織における品質改善・工程管理の強化にも有効で、幅広い業種の方にご活用いただける内容です。
- ISO 14001:ISO 14001:2026改訂への対応として、業界別運用ポイント解説セミナーをオンデマンド研修にて新たにリリースしました。業界特化型プログラムとして、①土木・建設業、②製造業、③サービス業それぞれについて、影響の大きい改訂ポイントを効率よく理解できる内容です。環境側面の見直し、外注・委託

先管理、変更管理、リスク・機会対応など、実務に直結するテーマを具体例で解説します。自社の業界特性に即した対応を検討したいお客様に特におすすめします。

オンライン/オンデマンド形式で、どこからでも受講可能ですので、ぜひこの機会にご活用ください。ご興味ございましたら、インターテックアカデミー&トレーニング(03-4510-2767)までお気軽にお問い合わせください。

レインフォレスト・アライアンス 認証サービス開始

レインフォレスト・アライアンス認証サービスの提供を開始いたしました。本認証はコーヒー、カカオ、茶類、バナナ等を対象に、環境・社会・トレーサビリティの側面から持続可能性を評価する国際認証制度です。農場およびサプライチェーン双方に対応しており、責任ある調達と持続可能な取り組みを推進します。

インターテック・サーティフィケーションは認定認証機関として、適用範囲の確認から審査、更新まで一貫して支援し、お客様の取り組みをサポートします。詳細は弊社ホームページ(<https://ba.intertek-jpn.com/service/standard26/>)をご参照ください。

Q&A

今号は、2026年4月15日に発行されたISO 14001:2026への移行に関するご質問についてご紹介します。

Q1. ISO 14001:2026版への移行はどう進めればよいですか？

A1. ISO 14001:2015を認証取得されているお客様は、2026年版への移行が必要となります。移行は、現在のサーベイランス審査または再認証審査の中で実施可能なため、既存の審査サイクルに合わせて計画的に進めることが重要です。スムーズな移行に向け、早めの準備をおすすめします。

Q2. 移行審査はいつ受ける必要がありますか？

A2. 移行期間は発行から3年間です。ISO 14001:2015年版の認証は2029年4月30日に失効するため、それまでに2026年

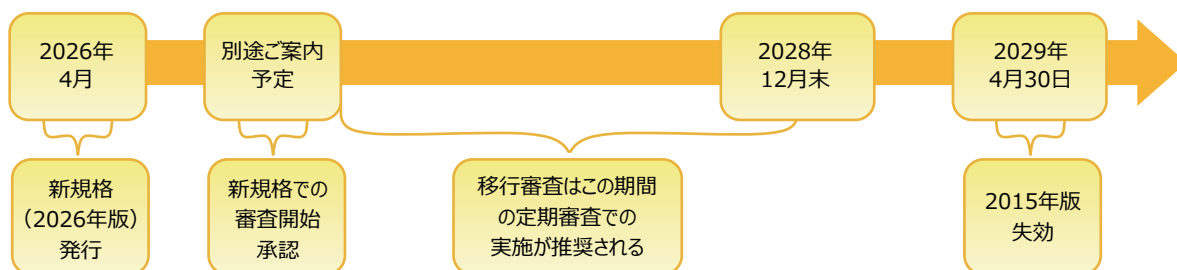
版への移行を完了する必要があります。スムーズな移行のため、審査後の手続き等も考慮し、2028年末までの定期審査(サーベイランス/再認証審査)での受審をおすすめいたします。移行スケジュールについては、下図もあわせてご参照ください。

【お問い合わせ】

◇移行審査に関するご質問等は以下までお願いいたします。

ISO認証部 Email:cert-scheme.japan@intertek.com
※弊社ホームページからもお問い合わせいただけます。
(<https://ba.intertek-jpn.com/contact/>)

◇ ISO 14001:2026 への移行スケジュール ◇



お客様紹介

株式会社テロワール・アンド・トラディション・ジャパン様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015 認証登録)

(取材者) 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

株式会社テロワール・アンド・トラディション・ジャパン様(本社:東京)は、2026年、ISO 9001:2015、ISO 14001:2015を認証取得されました。認証範囲は、「食品・酒類の国内販売及び輸出」です。

同社は、日本各地に根づく食文化や、生産者が大切に守り続けてきた技と哲学を次世代へつなぎ、その価値を国内外へ広く発信することを目的に、付加価値の高い食品を製造する事業者等の共同出資により設立されたユニークな法人です。風土や歴史に裏打ちされた食品の価値を見つめ直し、生産者と共にその魅力や背景を丁寧に伝えることを重視されています。問屋や商社を介さず直接取引を行う独自モデルを採用し、国内では主に生協、海外ではフランスをはじめとする欧州市場へ展開されており、こうした事業活動を通じて、品質に加え環境や持続可能性にも配慮しながら、地域資源の価値向上と地域振興に取り組まれています。

審査では、環境面の取り組み内容として、省パレット、プラスチック包装削減、有機栽培、減農薬への転換による環境配慮型調達、在宅勤務による働きやすい環境整備などが考慮されていました。



フランス・パリ開催の高級食材見本市「グルメ・セレクション展」出展風景

品質面では、輸送・包装の最適化により、製品ロスの低減と品質の安定化、有機栽培の推進による安全性・トレーサビリティの強化、電子化による情報の正確性向上、効率化、業務継続性(BCP)などが確認されました。

今後とも、このようなグローバルな視点で環境に配慮した取り組みを推進し、未来の子供たちへ豊かな地球を引き継いでいく持続可能な社会の構築への貢献が期待されます。



ミシュランレストランで提供されている同社の紫いもと大葉を使用したお料理(上)とデザート(下)

<https://tatj.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第45回 (環境編)

「マネジメントレビュー(1)」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

規格の構成では、マネジメントレビューもパフォーマンス評価の中に位置づけられていますが、PDCAのA(Acton)に相当し、C(Check)の情報をインプットとして、P(Plan)にアウトプットする、重要な機能と位置づけられています。

マネジメントレビューのインプットについては、規格(9.3項)では a~g の7項目が規定されていますが、これは4つのグループに分類できると捉えています。

①前回までのマネジメントレビューのフォローアップ(a)、②状況の変化(b)、③実績の報告(c~f)、④改善の機会(g) の4グループです。ここで、④については、理解に苦しむ内容が記載

されていることがあり、解釈がバラついているのではないかと感じることがあります。2015年版規格では「継続的改善の機会」という表記になりましたが、2004年版の規格では「改善のための提案」でした。こちらの方が分かりやすいと感じています。提案を受けるのはマネジメントであるのは自明ですが、提案するのはインプット事項の報告者(多くの場合、管理責任者)になるでしょう。他のインプット事項は客観的事実を報告することになりますが、④については、状況を理解しているはずの報告者の主観的意見で「(組織のマネジメントシステムを)改善するためには、(あと何をしたら良いか)を提案(問題提起)」することで、マネジメントが納得したら、マネジメントレビューのアウトプットに反映されることもあり得る、PDCAのAについての提案と捉えています。

マネジメントレビューが、マネジメントシステムを改善するための仕組みとして、マネジメントに適切な情報と意見が提供されているか、という視点で審査しています。





審査員リレーエッセイ ⑨1

From

神奈川県横浜市

占部 真純
(うらべ まさずみ)

Profile

専門分野：ISO 9001-IT、繊維、食品卸、流通関連

経歴：伊藤忠商事株式会社、株式会社日本アクセス、インターテック審査員（現職）



審査員からのエッセイをお楽しみください。

「新しい発見も……」

東京都中央区日本橋、私が47年前に社会人生活をスタートした街だ。インターテックの東京事務所も以前ここにあった。

昨年末から月1回、中央区のボランティアガイドさんの説明で「ぶらり中央区歴史散歩」を楽しんでいる。「べらぼう」ゆかりの地、佃・月島など、今回



は少し趣向を変えて日本橋クルーズ。日本橋の袂から乗船、日本橋川、神田川、隅田川と周り、計42もの橋を潜って日本橋に戻る。普段何気なく渡っている橋を下(船)から見る、実に新鮮！江戸城の掘割の石垣も残っている。お住いの街の歴史的な場所、のんびりと散策してみても如何！

連載 「ゆらぐ時代と、つなぐ力」 ③

環境よみもの

「仕組みを『回す力』 — 内部監査とマネジメントレビューがつなぐ実効性」

船井 勲 Isao Funai

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任審査員/IRCA認定 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任講師

■ 仕組みは「運用されてこそ機能します」

前回および前々回では、不確実な時代における企業経営の前提変化を踏まえ、気候変動やヒューマンエラー、AI依存といったリスクへの対応について述べてきました。本稿では、その仕組みが実際に機能しているかを、内部監査およびマネジメントレビューを通じてどのように検証し、変化への対応力を高めるかに焦点を当てます。制度として整備された仕組みも、実運用で機能しなければ有効性は担保されません。検証と継続的改善により実効性を確保することが不可欠です。

■ 内部監査を「評価」から「学習」へ転換する意義

内部監査は、適合性確認にとどまらず、仕組みが意図どおり機能し、有効性を維持しているかを評価する活動です。非常時対応手順も、現場で理解・訓練され、想定外に対応できこそ意味があります。特にAI活用や業務の高度化に伴い、形式と実態の乖離が生じやすく、内部監査はその可視化機能を担います。有効な内部監査は、不適合の指摘に終始せず、対話を通じて改善の端緒を抽出します。

ヒューマンエラーについても、手順、教育、業務負荷など背景要因に踏み込むことで、個別事象を組織課題へと昇華させることが可能となります。監査を「評価」から「組織学習」へ転換することが求められます。

■ Check・Actが機能不全に陥る要因

多くの組織で、「Plan・Doは実施されるが、Check・Actが十分に機能していない」状況が見られます。その要因として、監査やレビューが形式的報告にとどまり根本原因分析が不十分であること、改善が日常業務に埋没し優先度が低下することが挙げられます。加えて、改善責任の所在が不明確な点も停滞要因です。

■ 不適合・是正処置を阻む心理的障壁と、その打開の方向性

CheckおよびActの中核である不適合や是正処置には心理的障壁が伴います。現場担当者にとって不適合は顛末的事象として認識されやすく、評価や責任追及と結び付けて認識されることで、無意識のうちに報告を控えたり、表面的な対応にとどめたりする傾向が生じがちです。このような状況では、真の

原因に踏み込まず、再発防止の機会を失うこととなります。

本来、不適合は組織学習の重要な情報資源です。再発防止には、現場の事実や率直な意見を吸い上げるボトムアップ型の仕組みと、それを許容する風土が不可欠です。問題の共有と改善が適切に評価される環境整備が、Check・Act機能の前提となります。

■ マネジメントレビューと経営判断がPDCAを回す

これらの情報はマネジメントレビューに集約され、経営判断へと接続されます。気候変動リスクへの対応、AI活用の統制、人材育成などは現場情報に基づき判断される必要があります。本プロセスが機能すれば、兆候段階での是正が可能となり、重大リスクの未然防止につながります。

ISOの本質は、PDCA(計画・実行・評価・改善)のサイクルを回し続けることにあります。不確実性の高い時代においては、変化を的確に捉え、柔軟に修正し続ける力こそが、組織の持続可能性を支える基盤となります。

心豊かな庭造りとティーツリーオイル

No.01
Letter

株式会社津村造園 (ISO 9001:2015 認証登録)

代表取締役 津村 朋弘

私たち津村造園は、兵庫県淡路市に拠点を置き、1977年創業の造園・土木会社です。個人邸の庭園設計・施工から、公共施設や企業、民間商業施設の緑化、外構・エクステリア工事、維持管理まで一貫して手掛け、地域に密着した事業を展開しています。品質向上を目的に、2011年、ISO 9001を認証取得し、業務に適した形で継続的に運用しています。

長年培った技術力と提案力を活かし、自然と調和した景観づくりを通じて、人々の暮らしに潤いと安らぎを提供しています。こうした「心豊かな庭造り」は、私たちにとって大切なテーマでもあります。近年では、新事業として自社でティーツリーを栽培し、その枝葉か



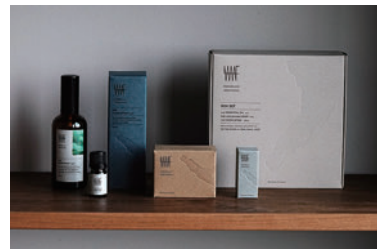
施工実績：店舗カフェー鳥の巣テラス



施工実績：個人邸プール庭園

らとれるエッセンシャルオイル事業にも取り組み、植物管理のノウハウを応用した高品質な製品づくりを推進。造園事業との相乗効果により、地域資源の価値向上と新たな魅力創出を図り、持続可能な地域社会の実現に貢献しています。

▶ <https://www.tsumurazouen.com>



ティーツリーオイルプロダクト商品

長年の技術で信頼に応え、抹茶粉碎へ

No.02
Letter

株式会社ペリカン (ISO 9001:2015 認証登録)

代表取締役 原田 洋志



大粒糧工場 (埼玉県加須市)

当社では1985年に埼玉県で創業し、豆類・雑穀を中心とした原料の選別・加工を受託にて行っております。大豆では、脱皮加工、ひきわり加工、粉碎加工に加え、近年はより高度な技術を要する組織状大豆ミートの製造など、多様な加工ニーズに対応してきました。雑穀・加工澱粉・米粉・香辛料など幅広い原料に対応し、課題を迅速に解決する「業界のお助けマン」として信頼を得ています。

長年にわたり取引先様の幅広い要望に応える中で、当社自ら品質管理体制の重要性を認識し、世の中の情勢や将来の事業環境を見据えた判断として、2014年にISO 9001を取得しました。これにより業務の標準化と継続的

改善の仕組みを確立しました。さらに、グローバル化の進展と食品安全要求の高度化を踏まえ、より高水準の管理体制が必要であると判断し、2021年にFSSC 22000を取得しました。現在は両規格を統合的に運用することで、品質と食品安全の両面から高い信頼性を確保しています。

近年は抹茶粉碎など新規分野での引き合いも増えており、これらの取り組みが新たな取引先様にも安心を提供する基盤となっています。他社が手掛けない分野に挑戦し独自技術を培ってきた当社は、その強みを活かして新たなニーズに応え、社会の変化に対応しながら事業拡大を進める一方、今後は新工場の立ち上げと自社製品の製造・販売を進め、国内外へ価値を提供できる企業を目指します。

近頃は抹茶粉碎など新規分野での引き合いも増えており、これらの取り組みが新たな取引先様にも安心を提供する基盤となっています。他社が手掛けない分野に挑戦し独自技術を培ってきた当社は、その強みを活かして新たなニーズに応え、社会の変化に対応しながら事業拡大を進める一方、今後は新工場の立ち上げと自社製品の製造・販売を進め、国内外へ価値を提供できる企業を目指します。



粉碎加工例：大豆ミート製品「Soyφ (ソイファイ) ミート」

▶ <http://www.pelican-eg.co.jp/>



7 月7日は七夕。笹に揺れる色とりどりの短冊は夏の風物詩の一つですが、短冊の色ごとに意味があるのをご存じでしょうか？古代中国の陰陽五行説に由来し、青・赤・黄・白・黒(または紫)の五色は、自然界の要素「木・火・土・金・水」を表すとともに、人が大切にすべき徳「仁・礼・信・義・智」とも結びついています。日本では黒の代わりに紫が使われることもあり、現在では紫を含めた五色が一般的です。青は成長や思いやり、赤は礼儀や感謝、黄は信頼や交流、白は規律や正しさ、黒(紫)は知恵や学びを意味するとされ、色選びも楽しめます。

こうした色に目を向けると、夏の空にも色の変化による発見があります。太陽の光は、一見白く見えますが、実際は虹で知られるように七つの色が混ざり合っています。昼の空が青く見えるのは、この中でも波長の短い青い光が大気中で散らばりやすいため、夏は太陽の高度が高く、青空がより鮮やかに感じられるそうです。夕方になると太陽の光は大気中を長く通るために青い光は弱まり、赤やオレンジの光が目立つようになり、空が赤く染まって見えるのです。そんな夕焼けは夏の季語とされています。また、日没直後には空が深い青に包まれる「ブルーモーメント」と呼ばれる時間帯もあります。青から赤、そして再び青へと移ろう色の変化は、昼と夜が入れ替わる瞬間として夏の空をより印象的なものになっています。ちなみに、太陽光をプリズムで七つの色に分け「スペクトル」と名付けたのは、

万有引力の法則で知られるニュートンによるものだそうです。

夏の「青」といえば、日本では藍で染めた「ジャパブルー」が古くから親しまれてきました。見た目の涼しさに加え、虫よけや抗菌性があり、夏の衣類にも用いられています。飲み物にも、鮮やかな青色が特徴のハーブティー「バタフライピー」があり、レモンを加えると紫へと色が変化することでも知られ、色の変化も楽しめます。

今年7月10日はウルトラマンシリーズ誕生から60周年にあたります。ウルトラヒーローの象徴でもある胸に光るカラータイマーは、当初は設定がなく、物語上の演出や制作上の事情で加えられたといわれ、また、当時はカラーテレビの普及率が0.3%と低く、白黒でも分かりやすいよう赤の点滅と警告音が取り入れられたそうです。一方、デザインを手掛けた成田亨氏は、神秘的な宇宙人として造形したウルトラマンに機械的な装置をつける演出に違和感を持ち反対していたともいわれ、その考えをくむように庵野秀明氏が企画・脚本を務めた映画「シン・ウルトラマン」ではカラータイマーがない初代のデザインを再現したことも話題となりました。

色の視点で見ると、何気ない風景にも自然のしくみや文化、人の感覚が重なり、多くの発見があります。今年の夏は「色」にも注目して楽しまれてはいかがでしょうか。(参照・出典：気象庁、日本気象協会、総務省「消費動向調査」、円谷プロ公式、映画「シン・ウルトラマン」、キャノン「サイエンスラボ」等の公開情報)

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。(https://ba.intertek-jpn.com/study/)

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO 9001 (5日間)/ISO 14001 (3日間)/ISO 45001 (3日間)
- ※ISO 14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

- 開催地** 東京(弊社東京事務所)
- 日程**
 - ISO 9001 ... 10/ 2(金) ~ 6(火)
 - ISO 14001 ... 11/26(木) ~ 28(土)
 - ISO 45001 ... 12/10(木) ~ 12(土)

JGAP審査員研修(青果物・穀物)

日本GAP協会認定のJGAP審査員研修です。JGAP審査員への最初のステップです。本研修の修了は審査員補登録要件のひとつです。

- 開催地** 東京(弊社東京事務所)
- 日程** 8/4(火) ~ 6(木)

好評！ オンラインセミナー

オンラインセミナー好評開催中！
各規格(ISO 9001/ISO 14001/ISO 45001/ISO 27001/ISO 22000等)の内部監査員養成コースを開催しています。また、講師派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

*弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。



FSSC 22000 Ver7.0 改訂動向とISO 22002シリーズについて (オンデマンド) を受講して

FSSC 22000 Ver7.0改訂動向とISO 22002シリーズについて (2026年3月オンデマンド) 受講
株式会社徳倉 品質保証部 品質保証室 チーフ 花田 公美子

弊社は砂糖を中心とした糖類の粉碎・コーティング・混合など、多品種にわたる食品原料の加工生産を行っています。2019年に創業100周年を迎え、「笑顔と幸せのみなもとを創る」をビジョンに掲げ、新たな100年に向け常にチャレンジする企業として邁進しています。

このたび、基準改訂および追加要求事項への対応を目的にセミナーを受講し、改訂の背景や要求事項の意図、実務への反映方法

のポイントを体系的に理解できました。特に、現場運用へ確実に落とし込むことの重要性を再認識しました。

今後は、本セミナーで得た知見を社内へ反映し、食品安全レベルのさらなる向上に取り組んでまいります。また、社内教育の充実や手順の見直しを通じて、全従業員の意識向上と運用の定着を図るとともに、継続的な改善を着実に推進してまいります。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 <https://ba.intertek-jpn.com/>

- 東京事務所** 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル4F E-mail: info.ba-japan@intertek.com
- 大阪事務所** 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F E-mail: info.ba-osaka@intertek.com